

龍源寺報

令和8年（2026年）春彼岸号

臨濟宗・妙心寺派	住職 松原信樹
佛母寺住職 松原覺樹	正福寺住職 松原行樹
TEL 03-3451-1853	FAX 03-3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

春彼岸におもう

龍源寺住職 松原信樹

微妙大師こと妙心寺二世授翁宗粥（二二九六～二三八〇）の二幅の墨蹟が、京都の天授院に残されています。「是日已過（是の日に過ぐ）」の四字と「少水魚有楽（少水の魚に楽しみ有り）」という五字の墨蹟です。第二幅に書かれた「少水魚」とは、いつ干上がるとも知れない浅い水たまりに生きる魚を指します。そこには、この無常の世に生まれ、日々死に向かう私たち自身の姿が重ねられています。『法句経』の原文に拠れば、常に死に瀕している存在である私たちに「楽しみはない」ということになりませんが、微妙大師は、死んでしまうことが決まっています。我々の人生にも、真の「楽しみ」があると言うのです。楽しみというのは、世間の苦楽を越えた「楽」の境地を指します。

私はこの意味を、ヨーロッパで第二次大戦中あるいは戦後、祖国を離れ異郷にさまざま人間の苦悩を描いた、ルーミア生まれの作家ゲオルギウの『第二のチャンス』に収められた「二つの世界」に触れたとき、さらに深く味わうことができました。登場人物のピラとマグダレナが、地面に頬をつけ、弾丸が叢をかすめ頭上の樹に当たるといふ絶体絶命の場面くさむらで、ピラは「たとえ世界の終末が明日であっても、私は今日リンゴの木を植える…」という言葉を口に

します。著者はこの言葉をマルチン・ルターのものとして紹介しますが、実際にはルターの著作には言葉の出典が見当たりません。それでも、この言葉が語ろうとしている精神は、重く胸に響きます。

私たちは日常においても、それぞれ重荷を抱えながら、希望の花を大切に育て、新しい可能性を探っています。宿命的な状況の中にあっても、希望なくして生きることができません。どれほど厳しい環境であっても、心にわずかでも余裕を持ち、新しい道を探ろうとする働きがあるからこそ、そこに活路を見いだすことができます。そう考えると、「たとえ世界の終末が明日であっても、今日リンゴの木を植える」という言葉は、「最後の瞬間を支えるものは希望である」という意味であったのではないかと思いうのです。「少水魚有楽」の「楽」という語は、世間の苦楽を越えた「楽」の境地ですが、漢字の持つ意味を考えると、「ねがう」という意味もあるのだと気づかされます。

春彼岸を迎えます。春は心新たに希望を胸に抱くことも多い時期ではないでしょうか。反面、春になっても心がひとつ優れないこともあるかもしれません。ゲオルギウが『第二のチャンス』で、リンゴの木を植えると語ったように、どのような場に置かれても、私は「希望」すなわち「ねがい」を持ち続け、いま、ここを生きるしあわせに日々感謝したいと思えます。

ご寄付

百万円 武田幸雄殿

五十万円 匿名殿

五十万円 匿名殿

一万円 匿名殿

ありがとうございました

※大変貴重なご寄付をありがとうございました。
龍源寺の周囲が再開発される中、龍源寺を地域の文化資源の一つとして捉え、先々代から三代続く境内整備に力を注いで参ります。

ご支援いただける個人・団体・法人の皆さまに改めてご協力を賜りたくお願い申し上げます。
未熟者ですが、宜しくお願い申し上げます。

龍源寺住職 松原信樹

春彼岸会

一、三月二十日（金曜日）午前十一時

一、法話

・駐車場はありません。

龍源寺への交通の便（地下鉄）

● 南北線。白金高輪駅下車。徒歩五分。

2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり。

〈都バス〉

● 田 87 渋谷駅—田町駅 魚籃坂^{ぎよらん}下下車

● 都 06 渋谷駅—新橋駅 古川橋^{きよがは}下下車

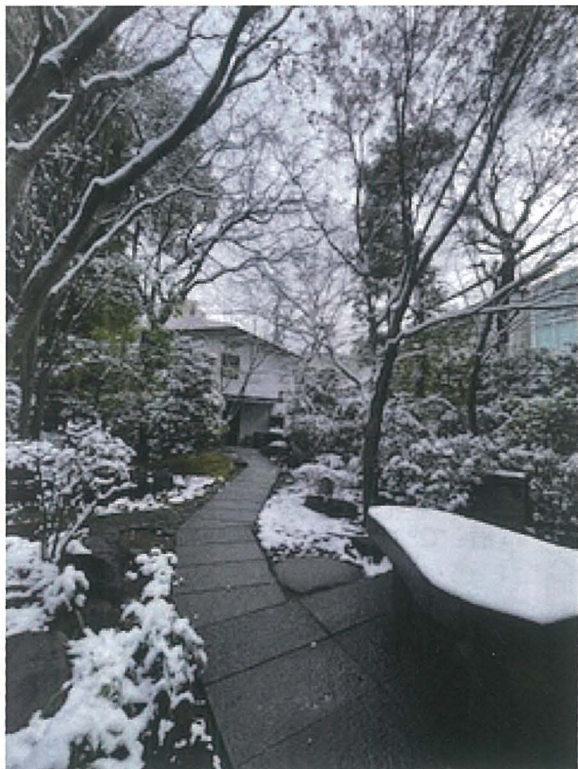
● 品 97 品川駅—新宿駅西口 魚籃坂^{ぎよらん}下・古川橋^{きよがは}下下車

● 反 96 五反田駅—品川駅—六本木ヒルズ（循環）

魚籃坂^{ぎよらん}下・古川橋^{きよがは}下下車

〈東急バス〉

● 東 98 東京駅南口—等々力操車場 魚籃坂^{ぎよらん}下下車



雪の中の水月堂（納骨堂）

「水月堂」とは、江戸期に龍源寺の境内に実在したお堂の名称です。

水月如意輪観音さまが名前の由来です。

（令和8年2月8日撮影）

水月堂

一つの月が、あらゆる水に映ります。

水の深さや形はそれぞれ違って、月の光は、平等に届けます。

水月堂は、亡き人を想う場所であると同時に、

ご先祖からのいのちのつながりと、

みずからのいのちの尊さに気づく場所です。

亡き人の存在は、今を生きる私たちの心にも映り、

静かにこの瞬間を照らしています。

このお堂を訪れるすべての方が、

いのちの尊さに気づき

感謝とともにいまを生きることができるよう。

龍源寺住職 松原信樹



Instagramを始めました。アカウントは ryugenji.zen です。お寺の行事や工事の状況などを配信していきます。皆さまフォローよろしくお願ひします。

柳 緑

春彼岸を迎えます。この度は、高額なご寄付をありがとうございます

花 紅

ございました。心より感謝申し上げます。龍源寺の周辺の再開発が始まります。

今年、二月に工事のバリケードが組み始めました。龍源寺を地域の文化遺産と捉え、境内整備に力を入れていきたいと思えます。今年一月に、長年借地として貸していた十坪の土地が、お寺に戻ってきました。引き続き、先々代から続く借地の整備を行って参りたいと思えます。未熟者ですが、よろしくお願い申し上げます▼早いもので今年も桜を楽しみにする季節が参りました。年を経るにあたって、年々その早さを実感しています。考えてみますと、一年はたったの三六五日しかなく、今年の五月に五十五歳を迎える私ですが、七十歳で父が亡くなったことを思うと、もしかして、自分には、思ったほど時間がないのかもしれないと思うようになります。中国・南宋の朱熹は、「少年老い易く学成り難し。一寸の光陰、軽んずべからず。」(偶成)

と述べ、「若い人も、すぐに年をとってしまい、学問は、なかなか成就しがたい。だから、わずかな時間も、決しておろそかにしてはならない」といいます。ですから、一日一日が本当に貴重な時間であり、今日できることは、先延ばしせず、今しておいた方がいいと思う今日このごろです▼雨の日が少なく、境内の草花が

どうなるかと思いましたが、今年も梅の花が満開に咲きました。私は、本堂から見える父が植えた白梅が好きです。法要後、多くの方々に今年もみていただきました。梅は二月に春の訪れを教えてください▼納骨堂にて永代供養をされる方は、お気軽にご連絡ください。もうすでに、何人かの方々にご利用いただいております。私自身も、お墓の改葬を経験しましたので、お力になれると思えます。もちろん、東北寺の墓地も若干ですがございます▼コロナで皆無になりました坐禅研修が、少しずつ復活をしています。企業研修では、海外の方の研修などもあり、研修をする方々が持つ宗教の問題などにも気をつけなければならなくなりました。

そういう意味で、アメリカやヨーロッパで、マインドフルネスといった宗教色を除いたものなどが実践されていることに納得をしました。研修は、寺族の協力無しではできませんので、いつも感謝しています。母は、膝を患いながらも、茶道のお稽古とお寺の雑用をしてくれています。お正月、社中の皆様と初釜でお話し

をさせていただいたところ、五〇年近く母の教室に通われている方がいらっしました。家内は、腰の調子があまり良くないようですが、会社の仕事とお寺の仕事と子育てを両立しています。そのためか、娘の瑞樹が座布団を運んだり、お寺の仕事を手伝ってくれています。ありがたいことです。俵万智さんの「最後とは知らぬ最後が過ぎてゆく その連続と思う子育て」(『未来のサイズ』)という歌があります。「あれが最後だったんだ」ということがよくあります。天から与えられた時間だと思い、日々を過ごしていきたいと思えます。▼三月二十日(金)午前十一時より、春彼岸会を厳修致します。ご家族でお参りください。(信樹)